

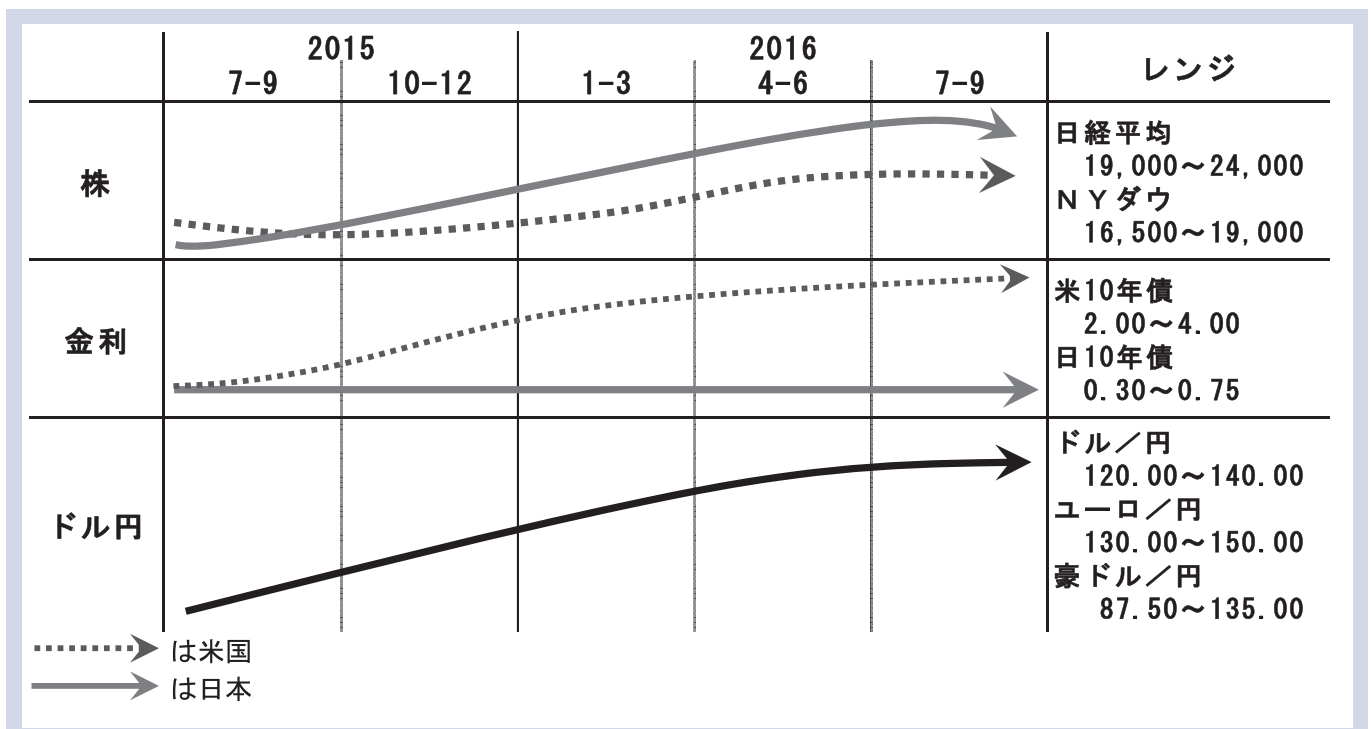
# 各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(8月5日時点)

## I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	輸出の悪化や個人消費の低迷を主因に景気は足元で足踏みとなっている。もっとも先行きは、①海外経済の緩やかな回復に伴う輸出の増加、②所得の増加を背景とした個人消費の持ち直し、③好調な企業収益を背景とした設備投資の増加、などが期待でき、次第に回復感が出てくると予想される。
② 米国	米国経済は、悪天候、港湾スト、ドル高などによって前半の成長率が鈍化したものの、年後半に安定的な成長ペースを回復する見込み。雇用・所得の緩やかな増加や、金融環境の改善等を背景とした個人消費の拡大、住宅市場の回復が持続すると予想される。また、経営者マインドの改善によって設備投資が小幅加速する公算。
③ 欧州	ユーロ圏経済は、高い失業率や企業の慎重な投資姿勢が景気回復の阻害要因となっているものの、原油安、ユーロ安、金融緩和の効果浸透で景気が上向くと予想する。物価は、原油安の下押し圧力が緩和することから、小幅プラス圏で推移する公算。
④ アジア・新興国	アジア経済は、6月中旬以降の中国株変動による悪影響が懸念されるほか、中国景気低迷が地域経済の重石となる可能性がある。他方、米国の景気回復は外需を中心に景気下支えの役割を担うと期待され、ディスインフレ下で金融緩和など政策余地もある。

## II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。